

	令和8年度 喜々津小学校だより 第4号 な み 喜々津 かよく みんなで	令和8年 6月26日(金) 諫早市立 喜々津小学校 校長 前野 泰介 
---	--	--

喜々津っ子の心と、喜々津っ大人の関わり合いを見つめる週間

「な み 喜々津」の保護者、地域の皆さん。教育週間（喜々津っ子の心を見つめる週間）への御参画、ありがとうございました。中には、朝の会の様子を見てから仕事場へ向われるなど、お子（孫）さんを一目見ようと足を運ばれた方もいらっしゃいました。5年生では、保護者や地域の方に、家庭科の裁縫の授業のお手伝いをしていただきました。教員もすべてにおいてスペシャリストということではなく、裁縫が苦手な者もいます。ベテランの方々がやってみせ、させてみせることで、縫い方のコツをつかんでいく子どもたち。この風景こそが、学校と家庭と地域、なかよくみんなでの学習だと胸が熱くなりました。「学校がサービスを提供し、参観者はその快適さを求めて学校へ来る」。そうではなく、学校と家庭と地域がともに得意分野を出し合うことで、より質の高い教育へと精度を上げていく。それだけではありません。人の温もりや触れ合うことの素晴らしさを感じる時間を創り出す。教育週間を、そんな素敵な期間に変えていかねばならないと決意したところです。

さて、この期間少し課題が見えたのも事実です。ご案内の文書に、「教師と子ども、保護者（地域の方）がともに関わり合う」と書いておきながら、そうするための仕掛けが不足していたことです。ただ、最終日の金曜日には、学校支援会議を校長室にて開催しました。

学校支援会議とは、「学校からのお願いを受けて保護者や地域の方が協力する仕組み」です。今回は、10名の地域の委員の方にご出席いただきました。つまり、学校と地域の関わり合いは、一つできたということになります。実は、今回のこの会は大きな意味がありました。



学校支援会議

次年度からコミュニティ・スクールとして動き出す本校の、意識や考え方の共有という大事な基礎固めの時間でした。コミュニティ・スクールになると、「学校支援会議」が、「学校運営協議会」へと名前と内容が変わります。「学校に協力する」という役割から「学校と一緒に作る」という役割に変わるのです。そうすると、教育週間の運営も変わってきます。5年生が行ったような保護者や地域の方と一緒に作る学びがもっと増えていくということになります。参観者の方々が、できるだけ「観る人」ではなく「一緒に学びをつくる人」になるよう何か考えていきます。来年が楽しみです。

最後に、そろそろ限界かなあと感じたことを共有しておきたいと思います。駐車場問題です。今回、特に最終日の雨のグランド開放が傷あとを残しました。教職員は子どもの指導や他の業務に専念する必要があります。善意から、用務員さんが一人で、中央部を避けながら誘導を行った結果、渋滞を起こしてしまいました。



5 cmほどの溝が一面に

このことを不満の声として学校に寄せた方もいらっしゃいます。また、次の月曜日、車の轍で運動場が荒れ、体育授業ができませんでした。昼休みの遊び時間の車の出入りも危険です。運動場の駐車場開放をやめにするか、保護者や地域の方が駐車場運営を主体的に行ってくださるか…悩ましいところです。

大人同士も、隙間を埋め合い、補い合い、課題改善を可能にしていく学校を目指します。